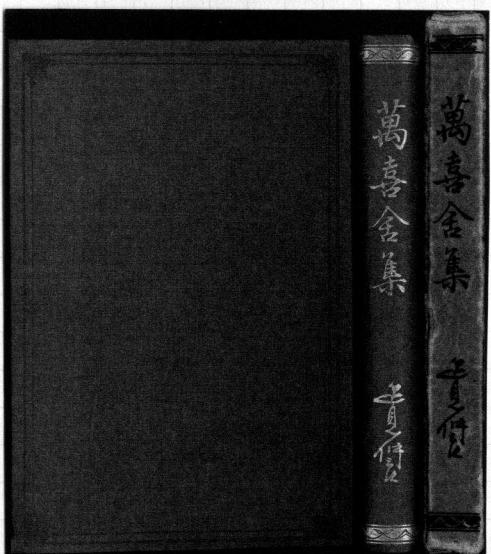


逸見伸二郎 （逸見伸二郎） 國學者、歌人。安政六年十一月十六日桐模國大山生れ、昭和二年九月一日歿（八五—一九一六）。號真木の崖、萬喜の舎主人、萬喜舎、萬喜舎主人、聖舎主人、逸見伸等。初め下山養徳に就き習字素讀を學び、藤原弟彦、小山水哉等に従ひ漢學を修める。明治七年權田直助の入門。十二年二島神社境内の修正學社教員、爾後大山生徒寮教員、靜岡縣皇典講究所正科教員、同縣神宮武藏掛歴任。前歸幽後、阿夫利神社祠宰、少講義を補せらる。二十一年同志と「中相學友會學術雜誌」を創刊し編輯を擔ふ。翌年佐佐木高行の知遇を得て上京、言語取調所編輯委員となり明治會の事と與つて「明治會叢誌」を發行し參劃。二十四年國語傳習所講師、また大八洲學會の顧問、二十六年國書寮御不講課事務。その後、落合直文等と國語漢文專修會、歌道研究會の發企、四十一年歌會富志美會主宰、大正四年職に親工實録編輯主任、圖書寮御用部等と務め、各地歌會の指導に當つた。姉妹二人、秋山光條の嫁し、歌入逸見美亮は次男。

著書 （又法） 『又法』、（詳解） 『上佐日記序義』、（神崎一作共著） 明治二十九年十月六日國文學會（『國語學名集』）（逸見美亮編、昭和五年五月一日富志美會）等の他、先師權田直助の遺著と并下野國と共に出訂出版（『増補國文の讀法』明治二十八年七月—二十五年近藤活版所、『各越舎遺稿』二十二年七月—近藤活版所、『漢文和讀例』二十七年四月—二十日近藤活版所）、また、富永春部撰修



口撰集考異 全二冊（富永孝太郎増訂、大正八年十一月二十五日新潟）
・富永孝太郎刊（の増補訂正と助勢、
口神習舎上巻目録
口神習舎下巻文集）（大正十五年一月二十一日朝霞喜（刊）と田邊勝哉と共編出版）神習舎は井上積
国の號（としてある。